

令和5年度 綾瀬市立綾南小学校 学校関係者評価報告書

| | |
|------------------------------|--|
| <p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p> | <p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p> |
| <p>学校教育目標</p> | <p>温かい未来を創造する人材(財)の育成 ・よく学び(実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) ・よく考え(道の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ・高めあう子(学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)</p> |
| <p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p> | <div style="text-align: center;"> <p>令和5年度 綾瀬市立綾南小学校グランドデザイン</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 学ぶ楽しさを感じて 高めあう人間関係の構築 社会性や規律の習得 <p>学校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> GIGA スクール カリキュラムマネジメント </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>学校教育目標</p> <p>温かい未来を創造する人材(財)の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> よく学び(実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) よく考え(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) 高めあう子(学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養) <p>重点目標 「生きる力」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力 健やかな身体 豊かな心(前向きに取り組む力・非認知能力・自己肯定感) </div> <div style="width: 30%;"> <p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 素直・まじめ 高学年が手本 生活習慣に課題 学習習慣に課題 メンタルが弱い <p>環境的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域・PTA 協力的 綾南公園が近い 水害対策が必要 </div> </div> |
| <p>今年度の重点目標</p> | <p>「生きる力を育む」</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力 健やかな身体 豊かな心(前向きに取り組む力・非認知能力・自己肯定感) |

| 取組分野 | 評価の観点 | 学校の自己評価と改善策 |
|----------------------|---|--|
| 1 学習指導 | 学校は、「よく学び（実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」）を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。 | 児童の9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、昨年度よりもポイント数が微増しています。教職員が指導の工夫や改善を組織として継続的に取り組んできたためと考えられます。今後も児童のつまずきに目を向けた授業改善を行い、児童や保護者が学習意欲の向上を実感できる授業づくりを引き続き目指していきます。 |
| 2 教育課程 | 児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動に積極的に参加している。 | 運動会やクラブ・委員会活動、学級の係活動では、児童が主体的に行動できるように支援し、行事や特別活動の活性化を図っています。異学年交流活動の「ここにこタイム」では、どの学年の児童も楽しく交流できるように、高学年が工夫し児童主体で運営しています。今後も、学校行事や特別活動、異学年交流活動の取組を通して、児童が安心して過ごせる学校環境を目指していきます。 |
| 3 児童・生徒指導 | 学校は、「よく考え（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」）」を育てる指導を積極的に行っている。 | 互いに認め合うことは児童同士の人間関係をよりよいものにし、学習や生活において友だちと協力して行動する経験を重ねることが、楽しい学校生活の基盤となります。各教科の時間、学級活動、児童会活動、異学年交流、行事などを通して、互いを認め合い、協力して行動しようとする心情を育てる取組の充実をさらに図っていきます。 |
| 4 児童・生徒指導 | 児童は、友人や先生との学校生活に満足している。 | 学校生活を楽しんでいる児童が8割を超えており、学級が一人ひとりを認め合い居心地のよい安心できる場所作り、仲間作り、授業作りを行い、支援したことが反映されていると思います。しかし、その反面、悩みや不安を抱えている児童もいます。どの児童も笑顔で学校生活が送れるように、毎日の観察や声かけ、授業改善を積極的に行い、支援していきます。また、児童が教師に相談しやすい雰囲気づくりにも努めていきます。 |
| 5 児童・生徒指導 | 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。 | 6割近くの保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、いじめの早期発見・再発防止の取組が少しずつ理解されてきています。しかし、教職員と保護者の認識の差が大きいので、保護者へのより一層の情報発信に努めていきます。また、いじめ案件については、保護者との連携を大切にし、学校、家庭が一体となって取り組んでいきます。 |
| 6 保健管理 | 学校は、「高めあう子（学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」）」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。 | 約9割の児童が、健康や安全に気をつけて、楽しく学習ができています。しかし、1割の児童が否定的な回答をしているので、学校全体で課題意識をもちながら、児童への対応を検討していく必要があります。自分だけを大切にすることはなく、友だちのこと考えた言動や行動を見直し、日々の学級指導で児童たちへ伝えていきたいと考えています。 |
| 7 安全管理、教育環境整備 | 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。 | 児童の安全のため、緊急時の避難の仕方については、今後も様々な場面を想定して指導していきます。廊下や階段の歩行については、児童の事故に繋がらないように、日頃から児童の様子を丁寧に観察し、学校全体での指導を続けていきます。不審者対応については、教職員向け研修を再検討していきます。職員全員が、しっかりとした不審者対応ができるよう研修方法なども見直していきます。 |
| 8 支援教育 | 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。 | 教職員、保護者、児童本人のニーズに応じてケース会議を開催したり、面談を行ったりしながら、チームによる組織的な対応を行ってきました。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、全職員で児童情報を共有しながら適切な支援を行うことができるように努めていきます。 |
| 9 組織運営 | 学校は、校長を中心とした運営組織となっている。 | 校長の学校経営計画の下、学校教育目標を念頭に学校運営を進めることができました。今後も校長を中心とした運営組織の中、前向きに業務にあたるとともに、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、各グループを軸としたPDCAサイクルを確立させていきます。そしてよりよい学校づくりに努めていきます。 |
| 10 教職員の研修 | 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。 | 今後も校内研究を通して、教師間の指導力向上、共通理解を図るとともに、日々の授業に生かすことができるようにしていきたいと思っています。また、教育に関する最新の動向や教職員のニーズをもとに、児童の指導に反映されるよう研究・研修計画を立案していきます。実施形式についても講義形式だけでなく座談会形式や実技講習など、教職員も意欲をもって学び続け、力量を高められるような内容となるよう工夫や改善に努めます。 |
| 11 教育目標・学校評価 | 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。 | 約70パーセントの保護者が、「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。保護者と教職員の認識の差があるため、今後も学校全体で、きめ細かい情報交換や共通理解を図り、児童一人ひとりのよりよい成長に向けて、適切な支援を行えるように努めていきます。 |
| 12 情報提供、保護者・地域住民との連携 | 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。 | お便りや授業参観・懇談会、家庭訪問、個別面談、PTAの各種会議等を通して、学校の教育活動や児童の様子を具体的に伝えることに努めました。来年度も学校だよりへの学年の活動の掲載、土曜参観日の「親子ふれあい美化作業」を実施するとともに、「学校へ行こう週間」の実施など、地域学校協働活動を更に推進していきます。そして、保護者や地域との連携を図っていきます。 |

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・いじめの早期発見・再発防止のための取組について、保護者と教職員の認識に差がある。このことについて、様々な問題が学校外で起こっていることにも起因していると思うが、今後も小さな芽に対して一つ一つ丁寧な聞き取り等の対応をしていき、いじめの芽を見逃さない努力・組織作りを努めてほしい。また、様々な問題が低年齢化しているので、SNSなどの問題については、外部講師等を活用して保護者への発信・周知をしていくことも必要である。
- ・いじめの取組について学校側だけでは対処が難しいので、コミュニティ・スクールをもっと活用してほしい。そして授業等の見守りを保護者にもお願いしてほしい。さらに学校側の指導について学校運営協議会委員が保護者に伝えていく。また道徳の授業で説話として指導していくことも必要である。
- ・朝の見守りボランティアを募集したが、見つけることが難しかった。簡単な規約を作成し、ボランティアの内容を分かりやすく伝えるなど、手順を整えたい。
- ・教職員と学校運営協議会委員とのコミュニケーションが少ないと感じる。1学期中に教職員と顔を合わせる機会を作り、連携を密にすることで、コミ・スクのメンバーは「教職員の味方・手伝い」であると認識してほしい。